

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備
	ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教員の個人研究費・図書費などを確保する。	→文部科学省科学研究費補助金、厚生労働科学研究費補助金などへの申請件数、採択件数。	B	B			
2. 教員の研究専念時間を確保する。	→学部担当科目数の平均値および学内・学部内委員会数および開催数。	C	C			
3. 教員の研究倫理に関する部内規程を作成し、これを遵守する。	→研究倫理に関する規程の成文化。	C	C			
4. 教員の研究倫理に関する部内審査委員会を設置し検討を重ねる。	→部内審査委員会設置の要綱。	C	C			
5. 教育研究支援体制を整備するためティーチング・アシスタントおよびリサーチ・アシスタント、実践教育支援室に助手・職員を置く。	→ティーチング・アシスタントおよびリサーチ・アシスタント、実践教育支援室の助手・職員の数。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 教育研究を支援する環境や条件については、学外研究費の確保や実践教育支援体制の整備などが方針としてあげられ、また研究倫理に関する取組などが目標として上げられた。 教員の研究専念時間の確保など必ずしも達成したとはいえない状況もあるが、文部科学省科学研究費補助金の採択など実績をあげてきたといえる。
その他	

## 《評価指標データ》

専任教員の研究費（実績）【大学基礎データ】  
 専任の研究旅費【大学基礎データ】  
 学内共同研究費【大学基礎データ】  
 教員研究費内訳【大学基礎データ】  
 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】  
 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】  
 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】  
 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】  
 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】  
 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】  
 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】  
 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	文部科学省の科学研究費補助金や外部資金等を確保している。
☆ その他	教育研究支援体制を整備するためティーチング・アシスタントおよびリサーチ・アシスタント、実践教育支援室に実習助手・職員を置いている。

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	教員の研究倫理に関する部内規程の整備など大学院諸問題検討委員会などを通じて検討をさらに重ねる必要がある。
☆ その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	教員の研究専念時間を確保する必要がある。
☆ その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	教員の研究専念時間を確保するために、講義時間数や会議等に要する時間を調査する必要がある。
☆ その他	

## ◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○外部資金の確保など様々な努力が図られています。教員の研究専念時間の確保については更に検討が進められることが望まれます。

【学内委員】

○教員の研究倫理に関する部内規定の整備などが進展していないようですが、必要性があるならば、検討を早めることが期待されます。

○2010年度には、人間福祉学部ベースですが、60%以上の高い採択率の科研費補助金を獲得して実績をあげた点は高く評価されます。ただし、2008年度開設以降の年次進行の中で、研究専念時間の確保などが不十分な状況であれば、実態調査の上、改善が期待されます。

○記述が具体的ではありません。数値をあげての説明が求められます。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、もう少し詳しく現状説明されることが必要です。

**【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】**

## ○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

## ○小項目9.0.4&amp;9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

**IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述**

## ○効果が上がっている事項その他

- ★ 教育研究支援体制を整備するためティーチング・アシスタント7名および実践教育支援室に実習助手・職員7名を置いている。